

根鄉公民館

根郷地区の概要

根郷地区は、佐倉市の南部に位置し、鹿島川右岸とその支流高崎川及び上流の南部川左岸に挟まれた丘陵地に位置している。

「根郷」の「根」は、ものの根元を意味し、嶺・尾根に通じ、「郷」は、里・村を意味しているが、当地区は、台地上或いは台地の根もとを取り巻く集落により構成されており、旧石器時代から中近世に至る各時代の遺跡が点在し、古来より住みやすい場所であったと思われる。

平安時代後半には、上総氏一族の勢力下にあった印東荘（古代末から中世にかけて佐倉・酒々井・成田・富里にあった荘園）に属し、村・郷ごとに在地に住居する領主が存在していたことが知られる。鎌倉時代から戦国時代まで千葉氏の影響力が強い地域となり、徳川氏が関東に入部し江戸幕府が開かれた頃から、現在のような村落が形成されていった。

明治22年4月、町村制が施行され、六崎、石川、城、木野子、神門、寺崎、太田、大篠塚、小篠塚の9地区により根郷村が発足した。

当地区は、旧来、鹿島川と高崎川流域を中心に、稲作を主体とした農業が営まれる農耕地帯であったが、現在、地域全体では、農村地域に残る自然豊かな山野と田畑、藤治台・大作・大崎台・山王・春路等の住宅地域、更にはJ R佐倉駅周辺の商業地域、佐倉インターチェンジ周辺の臨空工業地域といった多面的な地域構成となっている。

地区内には、J R佐倉駅と東関東自動車道の佐倉インターチェンジがあり、鉄道と高速道路における佐倉市の玄関口となっており、更に成田空港に近接する地の利を生かし、第1・第2・第3工業団地・熊野堂工業団地が整備され、本市の産業の中心地となっている。

また、地区内には、諸学校施設として、根郷小学校、寺崎小学校、山王小学校、南部中学校、根郷中学校、県立佐倉南高等学校（併設：県立印旛特別支援学校さくら分校）があり、文教地区としての側面も持ち合わせている。

根郷地区の面積は、市域全体の16.9%に当たる約17.5km²、人口は14.7%に当たる25,076人であるが、今後は、独立行政法人 都市再生機構施行による土地区画整理事業「寺崎北」地区（施行面積46.3ha、計画人口5,000人）への転入等により緩やかな人口増加が見込まれており、新たな商業集積地となっているJ R佐倉駅に近接する寺崎地区の発展が予想される。

根郷地区のデータ

【令和7年3月末現在】

○根郷地区：面 積	約17.5km ²	（佐倉市：面 積	103.69km ² ）
○根郷地区：住基人口	25,076人	（佐倉市：住基人口	166,914人）
○根郷地区：人口密度	1,433人/km ²	（佐倉市：人口密度	1,629人/km ² ）

1. 公民館運営計画

運営方針

佐倉教育ビジョンを基本として、根郷地区の特性を活かし、住民の生涯学習及び各種地域活動の場として中心的な役割を果たす施設となるように努める。

努力目標

- 施設設備の提供等に工夫をこらすとともに、利用者に好感を持たれる対応に努める。
- 幅広い年齢層の幅広い要望に応え、時代のニーズに応じた多様な事業を展開する。
- 地域の社会資源を活用するため、また、郷土意識の高揚のための橋渡し役となるように努める。
- 地域に根ざした社会問題への関心の喚起に努める。
- 公民館に関係する各種団体と連携を密にし、活動の支援に努める。
- 地域の実情に即しながら、D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進を図る。

施設利用

開館日・開館時間

①日曜・月曜・火曜・祝日 9時～17時

②水曜～土曜 9時～21時

※17時以降の施設利用がない場合は17時まで

利用区分 1時間単位（9時～21時）

休館日 第2・4月曜日、年末・年始 12月28日～1月4日

2. 公民館利用状況

年度別利用状況

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
利用件数 (件)	630	1, 571	1, 797	1, 874	1, 948
利用人数 (人)	4, 673	11, 949	17, 345	20, 954	21, 252
開館日数 (日)	239	333	333	334	333

令和 6 年度施設別年間稼働率

施設名称	利用可能回数 (回)	利用回数	稼働率
ホール	3, 464	1, 020	29. 4%
学習室 1	3, 464	899	26. 0%
学習室 2	3, 464	1, 205	34. 8%
プレイルーム	3, 464	784	22. 6%
調理室	3, 464	401	11. 6%
和室	3, 464	316	9. 1%
集会室	3, 464	1, 105	31. 9%

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	みんなと遊ぼう ぽっぴちゃんくらぶ	1～2歳児と 保護者 15組	5/10 6人 5/24 8人 6/14 13人 6/28 8人 7/12 6人 9/13 8人 9/27 4人 10/11 14人 10/25 19人 11/2 21人 11/22 6人 12/13 11人 1/10 10人 1/24 9人 2/14 15人	親子で一緒に運動や絵本・手遊び・工作等を楽しみ、幼児の様々な発達を促した。
	家族で体験教室	小学4年～6年と 保護者 家族10組	4/20 12人 5/18 12人 6/29 12人 7/20 12人	最近、インターネットの普及により個々で活動することが増えている。 ボッチャなど全4回体験活動を通して、子どもと保護者の絆を深めるとともに、子どもの自主性や想像力等の成長を育んだ。また、他の受講者とコミュニケーションをとることで協調性を育むことを目的とした。
青少年教育	根郷公民館 防災デイキャンプ	根郷地区小中学校 児童・生徒 21人	7/30 11人	災害時に役立つスキルを学ぶとともに、子どもたちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育んだ。 また、子どもたちの体験活動に係ることにより、地域住民や地域団体のつながりを深め、災害時の共助について考える一助とした。
	子ども体験講座	絵画教室： 小学1年～6年 15人	7/26 12人	体験型事業として、「絵画教室」を開催し、子どものやる気や自主性・協調性等を養った。
		読書感想文 教室： 小学5年～中学 2年 20人	7/25 6人 8/22 6人	児童・生徒が本に親しむ機会を作るとともに、読書の感動を文章に表現することを通して、豊かな人間性を育み、正しい日本語で自己表現力を養った。
		佐倉っ子塾 ～工場見学～行 こう～： 小学生15人	8/2 16人	根郷地区の工場を見学し、地域の産業を学び、地域社会に親しみを持ってもらうことを目的とした。
		勾玉づくり： 小学3年～6年 20人×2コース	8/9 午前 19人 午後 8人	体験型事業として、「勾玉づくり」を開催し、子どものやる気や自主性・協調性等を養った。
		『オリジナル ハーバリウム を作ってみよう ～ボトルアート の世界へようこ そ～』： 小学生20人	8/28 17人	自然の素材を使って作品を制作することにより、生態系や植物の成長について学ぶ機会を与えた。また、個々の作品を作ることで、受講生の感性や創造力を育むことを目的とした。
		市内で活動する 児童合唱団によ るクリスマスコ ンサート： 一般観覧50人	12/21 78人	根郷少年少女教室をきっかけに誕生した合唱団による里帰りコンサートを開催し、独立から20年余りを経て、活躍を続ける団体の活動を地域住民に紹介した。

領域		事業名	対象	期間・回数		内容
成人教育	根郷寿大学	根郷寿大学	60歳以上 80人	5/17 71人 6/21 74人 7/19 66人 9/20 70人 10/4 63人 11/15 70人 12/20 73人 1/17 46人 2/21 67人 3/21 68人		郷土の歴史や文化、健康づくり等の幅広い分野を学び、教養の向上と社会参加の推進を目的とした。また、受講者同士の交流も図った。 ①歴史・文化(佐倉の歴史等) ②防災 ③健康づくり
		シニア向け健康づくり講座	成人 20人	10/2 12人 10/9 12人 10/16 10人 10/23 11人		健康の維持増進を図り、生活習慣病予防を目的として、日常生活の中で簡単に出来る有酸素運動等を中心に健康体操を実践した。
		園芸教室	成人 20人	5/8 19人 6/12 16人 9/4 18人		佐倉ハーブ園と連携し、ハーブについての講義とハーブ園見学など地元企業を知る講座を実施した。
		お気に入りの布を使ってオリジナル御朱印帳を作ろう ～心を込めて作る一冊～	中学～成人 10人	11/3 10人		日本人の旅の始まりは、寺社巡りと言われている。伝統的な技法とオリジナルのアイデアを組み合わせた御朱印帳。過去からの日本人の伝統文化に思いはせながら、オリジナル御朱印帳を作った。また、根郷地区に多数ある寺社を巡る講座と併せて地域の文化に触れることを目的とした。
		珈琲学入門講座 ～おいしさの方程式～	成人 10人	11/30 10人		人々の暮らしに潤いを与える至福の一杯、珈琲の基礎知識、文化と歴史、珈琲豆の選び方、抽出技術等を学び、珈琲の持つ魅力を再発見した。
		おとなのための寄せ植え体験講座	成人 20人	12/7 20人		寄せ植えの基礎知識、追肥の仕方などを学び豊かな生活を送れるようにした。また、きれいな街づくりの一助となることもねらいとした。
		『風媒花』第37号特集「学芸員が語る佐倉の文化財」発表会	一般 50人	2/3 21人		学芸員の活動とその成果にふれ、地域にかかわる知見を広めるとともに、地域住民の学習意欲を高めることを目指した。
	佐倉学	佐倉学入門講座	成人 各50人	5/31 38人		「戦国後期の佐倉地域」 講師：遠山成一氏
				10/31 16人		「佐倉にゆかりのある幕末・明治の留学生」 講師：内田儀久氏
		佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪	成人 各15人	4/16 13人 11/8 14人		根郷地区を散策しながら、季節の野草を観察し自然に親しんだ。(野草観察会) 根郷をテーマに学び、自然や史跡、習俗行事等を訪ね、郷土を再発見することにより郷土愛を高めた。(寺崎地区史跡めぐりと密蔵院薬師大祭)
		佐倉学体験講座 根郷産こんにゃく芋を使ったこんにゃく作り講座	成人 15人	12/5 15人		こんにゃく芋から、こんにゃくを手作りました。

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
団体育成	根郷地区社会教育関係団体への支援	該当団体	通年	「根郷地区青少年育成住民会議」及び各種団体の活動を支援した。
		花の応援団（有志市民によるボランティア活動団体）	4/8 5人 4/26 4人 （チューリップ球根掘り） 6/10 5人 7/8 5人 9/9 5人 10/7 5人 11/11 6人 12/9 6人 3/10 5人	第2月曜日の午前中（冬季休み）
	定期利用者懇談会	利用団体代表者	76団体へ 郵送 出席43 配布33	公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺った。また、グループ活動の意義の理解を深めた。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者	3/6 7人	公民館の活動について理解を深めて頂くとともに、利用団体からの意見、要望を伺った。衛生環境を徹底するため整理整頓作業を行った。
広報	根郷公民館だより	根郷地区の住人・生活活動者・活動団体	4/15 7,000部 9/15 6,800部	公民館の主催事業、利用団体の活動、地区の情報などを掲載した館報を発行した。
図書	図書の貸出・返却	幼児～成人	通年実施 貸出 1,530冊 返却 3,423冊	佐倉市立図書館と連携し、図書の貸出、返却の受付を行った。

1. 家庭教育事業

みんなと遊ぼう ぽっぽちゃんくらぶ

① 開設趣旨

絵本の読み聞かせや簡単な工作、親子遊び・体操などを通して、幼児の想像力や豊かな心を育み、同年齢の友達と触れ合うことで幼児期の人格形成を促す。また、参加者同士の交流を図り、地域における仲間づくりの機会を提供する。

② 募集対象

令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれの幼児とその保護者。応募人数が少なかったため、6月1日より令和3年4月2日～令和5年4月1日生まれの幼児とその保護者と変更。

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月10日(金) 10:00～11:30	折り紙を使って	楽母楽子 廣田 和子
2	5月24日(金) 10:00～11:30	新聞紙ちぎり	
3	6月14日(金) 10:00～11:30	おうちの人にプレゼントを作ろう	
4	6月28日(金) 10:00～11:30	七夕 短冊にお願い事を書こう	
5	7月12日(金) 10:00～11:30	ボールをつかって	
6	9月13日(金) 10:00～11:30	お魚釣りをしよう	
7	9月27日(金) 10:00～11:30	手形をとろう	
8	10月11日(金) 10:00～11:30	かけっこしよう	
9	10月25日(金) 10:00～11:30	お出かけバッグをつくろう	
10	11月 2日(土) 10:00～11:30	(家族参観日) ロケットを飛ばそう	

1 1	1 1 月 2 2 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	折り紙をつかって	
1 2	1 2 月 1 3 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	ツリーに飾るものを作ろう	
1 3	1 月 1 0 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	たこあげをしよう	
1 4	1 月 2 4 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	鬼のお面を作ろう	
1 5	2 月 1 4 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	新聞紙ちぎり	

④ 講座を終えて

今年度も対象年齢を2～3歳として開始したが、思うほど人数が集まらず、加えて3歳からの幼稚園無償化。年度途中からでも入園できるとのこと。そのため、6月からは1学年下の1～2歳児も併せて募集することとした。

昨年度の公民館運営審議会の中で、委員から1～2歳児に対象を下げてよいのでは、というご指摘をいただいていたので、結果的によかったのかもしれない。

この「下の学年の子たち」を入れたことにより、こどもたちに変化が起きた。自分たちより小さいということを肌で感じ取り、もしクレヨンなどを取り合いになっても譲ってあげる。走り回っていたとしても、小さい子を気遣う。

この「譲る」といった行為は先に幼稚園に入った子のお母さんからも聞かれ、幼稚園の先生から、「取り合いになるかと思ったのに、ちゃんと譲ってあげてびっくりしました。」と言われたそう。子供同士でもルールがわかり、小さい子はいたわる、といったことができている。この講座のねらいとして掲げている「同年齢の友達と触れ合うことで幼児期の人格形成を促す。」といったことがきちんとできていたのだと思う。

そのほかにも、参加者から「新しい環境になかなかなじめず、いつも泣いてばかりで、習い事をいくつもやめてしまっていたが、ぼっぼちゃんくらぶに来てからは、泣くことも少なくなり、春から新しい社会（幼稚園）に踏み出す勇気をもらった。」「周りに迷惑をかけないようにと気を使っているが、こどもたちのありのままの姿を肯定してくれて、安心して過ごすことができる」といった声を頂いた。

初めての子育てだったり、核家族化が増える現代社会であるが、やはり人と人のコミュニケーションは大切である。今後も多くの親子に参加してもらって、心の拠り所となってくれればと思う。

家族で体験教室

① 開設趣旨

最近では、インターネットの普及により個々で活動することが増えている。そこで、この講座では、家族の絆を深めるとともに、こどもの自主性や創造力を育む。また、他の受講者ともコミュニケーションを図ることで協調性を育むことを目的とする。

② 募集対象

小学4年生～6年生と保護者 10組

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	4月20日（土） 9：30～11：30	ボッチャ体験	斉藤 英晴
	5月18日（土） 9：30～11：30	寄せ植え体験	日本ハンギングバスケット協会 高橋 洋子
	6月29日（土） 9：30～11：30	液体窒素（沸点－196℃） ～－196℃の世界を体験してみよう！～	成田西中学校 宮本 利之
	7月20日（土） 9：30～11：30	調理 ・変わりフレンチトースト ・レタスとトマトのスープ ・にんじんのピーラーサラダ	栄養士 内田 順子

④ 講座を終えて

コロナが5類となり、普段通りの生活ができるようになったため、以前の公民館講座を復活させようと連続講座を企画した。企画する際、どのような構成にするかを考え、「ボッチャで仲良くなり、寄せ植えをし、自分が育てた野菜を使って調理をする」ことに、さらに7月に終わらせることで、夏休みの講座へ誘導することとした。

定員を10組とし、根郷地区全児童チラシ配布等、広報を行ったが5組12人と応募が伸びなかった。

1回目のボッチャは、単純なようだが案外難しく、家族で協力し、相手の球を遠くへはじき出していた。試合をしていない家族の応援もあり、良い雰囲気作りができた。

2回目の寄せ植えは、講師の指導で順番通り植え、他の家族とも相談しながら完成させた。これから、2ヶ月後に使うということで、育て方を真剣に聞いていた。

3回目の実験は、当館で長年続いていた「おもしろ科学実験隊」の再現のようで、液体窒素を使い、温度の変化を観察した。サプライズでの「液体窒素を使ったアイスクリーム作り」は、皆テンションMax！「おいしくなあれ おいしくなあれ」と一生懸命 材料と液体窒素を混ぜ合わせ完成することができた。

4回目は、育てた野菜を持ち寄り、「変わりフレンチトースト」を含め3品。食生活改善推進委員2名も指導に加わり完成することができた。

アンケートの結果をみると、小学生全員が「楽しかった」、保護者のほとんどが「事業の目的が達成されている」と答え、期待通りの成果が得られたと思う。ただ、サークル等今後へ繋げていくことはかなり難しく、これから研究していかなければならないと思っている。次年度以降 実施するとなったら、時期や内容をさらに検討していきたいと思う。

一番印象に残ったのは、「自分で育てた野菜は、美味しい！」と言ってもらえたこと。また、この講座で、全回全員参加を達成することができたのも、嬉しかった。

2. 青少年教育事業

根郷公民館 防災デイキャンプ

① 開設趣旨

将来必ずやってくる災害について、正しく恐れて備え、対応できる力を身につけられるよう、青少年を対象として、将来にわたる地域社会の防災力向上を目的に、災害を想定した体験に取り組む。

② 募集対象

小学4年生～中学3年生 21人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月30日（火） 9:30～15:30	災害護身術 防災食の調理と試食防災食作り 防災カードゲーム クロスロード	佐倉消防署消防士 南部保健センター 栄養士 危機管理課 佐倉市ジュニアリーダーズクラブ

④ 講座を終えて

コロナ禍以前に実施されていた防災キャンプを、令和3年度より日帰りに変更して、3回目の開催となった。内容は3部構成のまま、より災害時対応に重点をおいて検討し、①第1部：災害護身術、②第2部：防災食の調理実習、③第3部：防災ゲームを行い、ジュニアリーダーが参加者をサポートして進行する新しいプログラムで実施した。

- 第1部：想定される危険と回避の仕方について、神戸市で以前行われていた学校向けプログラムを参考に、消防士から危険物などを想定した手作りモデルや、実演を交えて指導いただいた。
- 第2部：栄養士を講師に、講義・実習を行った。災害時に想定される食生活上のアドバイスと衛生管理に続いて、缶詰・乾物・菓子類を耐熱ビニール袋で湯せんする調理をして、その試食を昼食とした。主食には、危機管理課より提供のアルファ米を使用した。児童・生徒が自分たちで調理を進められたのはごく一部で、ジュニアリーダーズクラブ役員がつきっきりで補助する状況となり、予定時間を30分超過した。
- 第3部：危機管理課職員からの提案を受け、例年通りのゲームから、避難所に限らず災害避難を想定したカードゲーム「クロスロード」に変更して実施した。打合せ時に指摘のあった例年疲れて話し合いの進みが悪くなるといった様子はなく、終了まで積極的に取り組む姿が見られた。

3部全体とも講師陣には多大なご尽力をいただき、新しく実施した実践的な内容に対して、参加者から役に立つと思うとの評価を得ることができた。

青少年の育成を通して、将来にわたる地域の防災力向上をはかる面では、実施・継続の意義は大きいですが、講師・当館双方の準備量に対して、参加者が少ない点が課題で、補助者分の材料費と併せて、検討が必要である。

絵画教室「メタル絵画に挑戦」

① 開設趣旨

体験型の講座を通して、受講生のやる気や、創造力、自主性を養う。

② 募集対象

小学1～6年生 15人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月26日（金） 9：30～12：30	絵画教室「メタル絵画に挑戦！」	ワールサークル会 員 他

⑤ 講座を終えて

体験型の「メタル絵画講座を通して、こどものやる気や自主性・協調性等を養う」を企画した。

講座では、ティッシュペーパーの空き箱を使って、好きな題材の絵を描き、切り貼りして、「ブルーメタル箔」を貼り、最後にスポンジで磨き、深みのある濃淡の光沢を持った絵画に仕上げました。

講師の方々の絵を会場に展示して、講座が始まるまでの時間や休憩中に絵を鑑賞する機会を設けた。

前回仕上がりが遅い子がいたため、講師が構想の段階から早めにアドバイスをしていた。作成中は、皆真剣で、構想を考えてなかなか取り掛からない子もいたが、一度構想が決まると集中力が高く、完成までが速く全員完成した。作品は、ビールグラスや動物、魚、○□△などの幾何学図形の組み合わせ等ブルーメタリックで独創的であった。

最後に受講生がお互いに鑑賞して、一人一人の作品について感想を述べ、それに対して講師が絶妙な講評もあいまって、更に他の受講生が作った作品の感想も言い合い、拍手でたたえ、時間まで楽しみながら学んでいる様子うかがえた。講座に今までにないくらいの手ごたえを感じたと講師の方々からも感想があった。講師から家に帰ってからアルミ箔をマジックで塗っても作ることができるという話があると是非やってみたいという声が子どもたちから出た。

アンケート結果を見ると、「楽しかった」が10人と多く、満足度が高い評価となった。「次回参加したいか」について、小学3年生の受講生1名が「いいえ」につけたが、「参加したい」が多いという結果となった。「公民館でやってみたいこと」の自由意見は、メタル絵画は好評で次回の要望として一番多かった。また絵をさらに上手になりたいという要望もあった他、お茶を1から作りたいなど小学生とは思えない好奇心旺盛な意見があった。

アンケート結果の次回も参加したいが多かったため、来年度も絵画を継続し、次回以降テーマを検討していきたい。

夏休み子ども体験講座 読書感想文教室

～今年の夏は、読書感想文から始めよう～

① 開設趣旨

児童・生徒が、本に親しむ機会を作るとともに読書の感動を文章に表現することを通して豊かな人間性を考える力を育み、正しい日本語で自己表現力を養う。

② 募集対象

小学5～中学2年生 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月25日（木） 13:30～15:30	なぜ読書感想文が宿題になるのか。 本の選び方、読書感想文の書き方	元中学校国語教諭 岡本 万里子
2	8月22日（木） 10:00～11:30 13:00～14:30 14:30～16:00	読書感想文の書き方、まとめ	

④ 講座を終えて

児童・生徒が本に親しむ機会を作ることを目的に今年度も開催した。根郷地区の小中学校の児童生徒にチラシを配布し、SNS等を利用し広報を行った。

今年度の応募は、7人とどまったが、講座中に話を聞くと「コンクール入選をめざすから来た」という生徒も居た。

1回目の講義は、そもそも「なぜ読書感想文が夏休みの宿題になるのか」というところから解説が始まり、本の選び方、読書感想文の書き方へと進んでいった。「なぜ」の回答は、「本を読んでもらい考えてもらいたい。文章力を身につけてもらいたい」からだそうだ。選ぶ本は、何も難しい物を選ぶ必要はなく、興味のあるものや読みやすい物を選ぶと良いとのこと。

当日は、職員派遣を依頼し、佐倉南図書館から司書が来館し、受講者の相談に乗ってもらった。読書感想文で大切なのは、「書き出し」と「まとめ」だそうで、講師の指導もそれが中心だった。

2日目は、個々に対応してくださり、みな思い思いの作品が出来上がった。

アンケートを見ると、全員が「役に立った」と回答し、夏休みの宿題が1つは、計画的に完成することができ、事業としては、成功したと思う。ただ、中学生は、「次回は、参加したくない」と答えたため、来年度は、読書感想文にこだわらず、夏休みの各種作文の宿題に対応した物や日程調整など、中学生にも受講してもらえるような講座を検討していきたい。

佐倉っ子塾 地元の工場を見学してみよう！

① 開設趣旨

地元の工場を見学することにより地域の産業や文化などを体験学習し、こどもの創造力や探求心などを育み、地域社会に親しみをもちてもらうことを目的とする。

② 募集対象

小学3～6年生 16人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	8月2日（金） 10:00～12:30	工場見学	TOTOバスクリエイト（株）社員

④ 講座を終えて

今年度新たに行った事業の一つ、「地元の工場を見学してみよう」。

初めの打ち合わせの時に「工場内は大変暑いです」といわれ、この時期に行うのは、熱中症などの危険が伴うのではないかと心配もしたが、こどもたちは元気に見学して、無事に終えることができた。

初めに会議室で、DVDを見て、説明を受ける。その後、16名ということで2班に分かれ、工場内を案内してもらった。バスルームの壁にシャワーや電気の穴を開ける設計図は、すべてQRコードで作成され、それを読み込んで機械が穴を開けていく。こうすることで、ミスがなくなるとのこと。また、すべての部品が棚に整列され、それを機械で読み取って一つのバスルームに必要な部品をそろえていく。バスタブを作るのはプラスチックを溶かして圧縮していくのだが、大きな機械とその熱量にこどもたちは圧倒されていた。

参加者は、工場内は大きな音がしたり、フォークリフトが行き来する中で、講師の説明を熱心に聞いていた。最後にショールームの見学を行ったが、新しい最新のバスの展示にこどもたちも楽しそうに見学していた。

アンケートを見ると、大半が「役に立った」「次回も参加したい」と答えていた。また、「すごく暑かったけど工場の方は毎日がんばっているんだと思いました。」と、その苦労を痛感した意見も聞かれた。

今回の工場見学はTOTOバスクリエイイトさんが快く見学に応じてくださったことに感謝しつつ、来年度も別の工場見学ができればと考えている。

夏休みこども体験講座 勾玉づくりに挑戦！

① 開設趣旨

勾玉作りや展示する土器などを通して、縄文時代の生活に触れる機会とするとともに、ものづくり体験の喜びを実感してもらうことで受講者のやる気や自主性を養う。

② 募集対象

小学3～6年生 各回20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	8月9日（金） ① 9：30～11：30 ② 13：30～15：30	勾玉づくり 縄文式土器や矢じりなどの展示・解説	千葉県教育委員会 文化財課職員

④ 講座を終えて

毎年人気の勾玉づくり講座。今年度も午前、午後の2回開催した。申し込みは、午前は定員となったが、午後は8人と少し少なめであった。日中の猛暑が影響しているか、またはほかの新たな事業に参加することとなったのか。来年度はまた、午前のみの開催にしてもよいのかもしれない。

また、今年度も、佐倉南高校の生徒に地域事業への参加ということで、この事業のサポートに来てもらった。

講座は、初めに縄文時代や弥生時代の土器や石器などについて解説があり、そのあと、実際に土器や石器を触ってみたいとして、楽しみながら古代の人々の暮らしや文化について学習することが出来たと思う。

勾玉づくりでは、講師のわかりやすく丁寧な説明を受け、砥石や紙やすりで削ったり磨いたり作業を行う。高校生も、順次子供たちのサポートをしてくれて、皆集中して作業を行っていた。およそ1時間半後、皆それぞれに勾玉を完成させることができた。

アンケートでは「楽しかった」「来年も参加したい」という声が多く寄せられており、楽しく貴重な体験ができたと思う。

開催の方法は検討課題となるが、来年度も開催し、より多くの児童に体験してもらいたいと考える。

根郷公民館クリスマスコンサート

① 開設趣旨

佐倉市民音楽ホール主催事業の郷少年少女教室をきっかけに誕生した合唱団による里帰りコンサートを開催し、独立から20年あまりを経て、活躍を続ける団体の活動を地域住民に紹介する。

② 募集対象

一般50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	出演
1	12月21日（土） 15:00～16:00	小学生から大学生まで青少年の 混声合唱によるコンサート	佐倉ジュニア合唱団 指揮：戸谷登貴子 ピアノ：鈴木花織

④ 講座を終えて

市内施設での実施例から、駐車場・施設内の混雑が予想されたため、早くから想定される課題を抽出して準備を進め、開催した。事前の連絡交渉と依頼により、近隣の学校・店舗と、合唱団の協力を得て、当日は、駐車場の混雑や混乱を回避することができた。

観覧は、合唱団の保護者・祖父母の来場が多い印象であった。3日後に市内で同様のコンサートを控えていたため、友人等の知人や一般者は、より遠方になる会場での観覧を見合わせたものと推察される。

コンクールでの受賞歴も多い合唱団による発表に、アンケートには高い満足度が寄せられ、合唱団への理解・音楽に対する学習とも向上が見られる結果を得られた。合唱教室の当初から携わる合唱団の指導者からも、始まりの場所での発表に、格別の思いがあったとの感想をいただいた。

根郷地区で実施された青少年教育事業から誕生した合唱団のコンサートは、当館事業として大変意義がある。一方で、恒例になっていた地域のこども支援活動が運営の変更を余儀なくされたほか、当日、施設予約の制限を要するなど、駐車台数も含めて施設状況に対する考慮を欠いていた点是否めず、日ごろ利用サークルに対して施設に合わせた活動を求める立場として事業計画への反省が求められる。

夏休み緊急企画！ オリジナルハーバリウムを作ってみよう

～ボトルアートの世界へようこそ～

① 開設趣旨

自然の素材を使って作品を制作することにより、生態系や植物の成長について学ぶ機会を与える。また、個々の作品を作ることで、受講生の感性や創造力を育むことを目的とする。

② 募集対象

小学1年生～ 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	8月28日（水） 10:00～12:00	ハーバリウム作り	JHA認定講師 大石 真知子

④ 講座を終えて

今年度当初には予定をしていなかったが、夏の緊急企画としてハーバリウム体験講座を行った。講師との顔合わせ、打ち合わせが7月中旬に行い、各公民館、図書館でのチラシの配架、また、公共施設でのチラシの配下と、LINEによるアナウンスで募集を行った。また、勾玉づくり講座の際にもチラシを配布した。結果、16名の応募があった。

講座は、初めに講師からハーバリウムとは、と説明があり、その後実践。瓶を選んだり、入れる花を選んだり。参加者も初めは迷ったり、やり直しをしたりしていたが、やっと花を入れ終えオイルを入れると、満足のいく作品に仕上がった。

アンケートからもほぼ全員から「とても楽しかった」「またやってみたい」という声上がり、来年度も可能であれば実施していきたいと考えている。

応募人数が16人だが、当日、保護者も1名参加したいとのことで、急遽参加された。今後は子供だけにとどまらず、大人の応募が増えてくれることを望む。

3. 成人教育事業

根郷寿大学

① 開設趣旨

高齢化社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら健康で充実した生活を過ごせるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などの学習の場を提供するとともに、受講者同士の交流を図る機会を提供する。

② 募集対象

60歳以上 80人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月17日（金） 10:00～12:00	開講式・オリエンテーション 日程説明・校歌の練習・ 班長等の選出	公民館利用サークル 「シニアコーラス 根郷」の皆様
2	6月21日（金） 9:20～12:00	佐倉の郷土の先覚者 津田梅子	元根郷小学校長 諸根 彦之 氏
3	7月19日（金） 9:20～12:00	D Xの推進について (デジタルトランスフォーメーション⇒デジタル技術)	株式会社デーシー エム 土泉澄 氏
4	9月20日（金） 9:20～12:00	地域防災について	根郷小学校区まちづくり協議会 防災士 森 哲郎 氏
5	10月 4日（金） 9:20～12:00	音楽鑑賞	公民館利用サークル 「美奏会」の皆様
6	11月15日（金） 9:20～12:00	健康を維持するための軽体操	AFAA認定インストラクター 森 たか子 氏
7	12月20日（金） 9:20～12:00	郷土の刀剣鍛冶方を学ぶ	佐倉郷土刀保存会 代表兼研究員 井原 重之 氏
8	1月17日（金） 8:30～17:00	校外学習 東京都環境局中防合同庁舎・埋 立処分場 豊洲市場 そなエリア東京	
9	2月21日（金） 9:20～12:00	印旛沼の生態系について	千葉県水産総合研 究センター内水面 水産研究所研究員 野中 彩羽 氏
10	3月21日（金） 9:20～11:00	1年間のまとめ 閉講式	

④ 講座を終えて

今年度も1グループ80人で実施したことから抽選となった。しかし、開講前にご自身の体調等の理由で4人が入れ替わりスタートとなった。

講座の内容は、佐倉の歴史、地域防災、健康など様々ジャンルを取り入れた。特に今年度は、頻発する自然災害に備えるため防災に力を入れた。

1月に広域防災拠点として設置された防災体験学習施設「そなエリア東京」を含む「校外学習」を実施した。この施設は、「発災後72時間をどう生き延びるか」を考える施設で、タブレットを持ち被災した街に出て、「この時、自分はどう行動すれば良いか」を、

クイズに答えながら避難所に避難する体験を行いました。さらに、埋立処分場を見学し、「ごみの減量が必須」と言うことも学んだ。昨年度のアンケートで校外学習の復活を望む声が多数あったため、5年ぶり実施であった。

班活動では、各班 食事会や佐倉市近郊の散策など活発に行い、親睦が深められたようだ。

アンケート結果を見ると、講座の内容は、「校外学習そのものが良かった」「内容が良かった」「色々と勉強になった」との回答であったが、DXについての講義は、まだ受け入れられないようで「悪い」と評価した方が多数いた。その他、班活動の在り方を問う意見があった。班活動は、アウトドア派とインドア派のそれぞれの意見があり、お互い消化不良となっているようだ。会長と相談しつつ、班活動をどうしていくか検討したい。

この講座は、1年制で何度でも受講することができることからメンバーがほとんど変わらないため、地域課題などをカリキュラムに組み込みマンネリ化しないよう気を付けながら来年度以降につなげて行きたい。

シニアのための健康づくり講座

① 開設趣旨

生活習慣病の予防や、日常生活の中で簡単にできる運動を学び、シニア世代になっても健康で日々暮らせるようにする。

② 募集対象

成人 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月2日（水） 10：00～11：30	柔軟、筋トレ、有酸素、バランス運動の4つの運動を中心に学ぶ	AFAA認定 インストラクター 森 たか子
2	10月9日（水） 10：00～11：30		
3	10月16日（水） 10：00～11：30		
4	10月23日（水） 10：00～11：30		

④ 講座を終えて

本年度の健康づくり講座も例年通り、定員20名、4回の講座として募集を行った。申込み者は18人であった。4名が体調等を理由にキャンセルが出た。

第1日目ヘルスチェックアンケート実施。今回は受講者が60才から81才と幅広かったため、講師が体の不調の方がいないか、より丁寧にチェックを行ってから講座が開始された。

前半の講義では、「～つくってみよう！やってみよう！健康（健幸）づくりの自分モデル～」をテーマに、健康づくりの3本柱、有酸素運動・筋力運動・柔軟運動・バランス運動、アクティビティ（身体活動）＋コミュニケーション（認知活動）の関係、1日30分以上体を動かすメニューを学んだ。休憩をはさんで、実技に入った。最初は、ストレッチと柔軟体操を行い、椅子を使って筋力運動・バランス運動、椅子無しに有酸素運動、マットを引いて整理体操を行った。圧迫骨折をした受講生もいたが自身が参加できる範囲で運動を行った。

第2日目の前半講義では、認知症の予防効果として「有酸素運動と筋力運動」、脳が幸せを感じるホルモンについて学んだ。後半の実技では、柔軟体操の後、椅子を使ったバランス運動、椅子無しの有酸素運動を行った。全員積極的に取り組む姿勢がうかがえた。

第3日目の前半講義では、呼吸法について、防衛体力を高める呼吸法が効果的ということで、横隔膜、助間筋、腹横筋を意識した呼吸法の説明がなされた。講義の中で、講師の呼吸の動画を使って、わかりやすい講義となった。後半の実技では、ストレッチの段階から呼吸法を取り入れ、ヨガの筋力運動・バランス運動等有酸素運動を促す体操が重点的に行われた。

第4日の前半の講義は、今まで3回の要点、呼吸法などの復習を行った。また、音読の効用について、脳の記憶や学習、感情を司る「前頭前野」を鍛える効用があるとの講義であった。その後、今までの復習の実技を行い、最後に片足立ちでのバランス運動を行い、最初の講義と比べて効果が出ているか確認も行われた。男性受講生が1名であったが、最後まで積極的に受講し、また運動を継続したい意思を表していた。最後に運動サークルの一覧表を希望者に配布したが、大勢の受講生が継続して運動する意思を表していた。

アンケートでは、満足7名、やや満足4名、意欲が高まった7名、少し高まった4名との高評価を得ており、講座を受け運動を継続しようと受講者の機運が高まったと考えられる。また、こうした講座を継続してほしいだったり、もっと多く開催してもらいたいという意見もよせられた。

園芸講座「今注目のハーブ『ローゼル』について」

① 開設趣旨

根郷地区所在の佐倉ハーブ園と連携し、ハーブという植物を通して園芸の基礎を学ぶとともに、地域について知る機会とする。

② 募集対象

成人 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月8日(水) 10:00～11:30	【講義】ローゼルについて	佐倉ハーブ園園長 柴田 忠裕 (株)常磐植物化学 研究所 増尾 栄一
2	6月12日(水) 10:00～11:30	【実習】ローゼルの種まき、園内見学、ハーブティー試飲	
3	9月4日(水) 10:00～11:30	【フォローアップ】成長したローゼルのアドバイス・ローゼルの活用実習	

④ 講座を終えて

講義・種まき各1回の実施に、成長後に関する指導を加えた全3回に構成を変え、初回を根郷公民館、残る2回は佐倉ハーブ園を会場にして開催した。ローゼルは実習で種をまいたポットを持ち帰り、各自、庭やプランターで栽培していただいた。第3回の時点で、受講生全員1本以上発芽し、1/3ほど開花前であった。開花した中では、ピンクが大半を占め、濃赤・白が数名、講師も珍しいという黄色が1名見られた。

名物園長とも評される講師による指導に期待して、応募・参加する方が集まった印象であった。熱心な語り口は好評であったが、今回も講義資料を作成していただくことができなかったこ

とに対し、担当として課題を感じたほか、受講者からもアンケートで意見が寄せられた。発芽後の植替えから追肥の時期、日照についてなど注意点があり、メモ書きを頼りに自宅で栽培することには困難が多かったことと推察する。

講師や実施場所の印象から、佐倉ハーブ園の講座と認識して意見・希望を寄せる受講生が見られた。受講後の活動・関心も、地域・団体活動より、ハーブ園に向けられることが容易に想像され、地域活動や団体育成へ事業効果を還元できない状況が続いている。植物・園芸は、自然科学分野から学習機会を提供しやすいテーマであり、実施意義の高いところであり、受講者個人の興味関心が他者や地域とつながるようなプログラムの検討を継続したい。

珈琲学入門講座 ～おいしさの方程式～

① 開設趣旨

市民の方は、毎日忙しい日々を送っているが、今日だけは日常を忘れ、珈琲の基礎知識や文化と歴史、珈琲豆の選び方や、抽出技術などを学び、珈琲の持つ魅力を再発見し、至福の一杯に出会う機会とする。

② 募集対象

成人 10人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月30日（土） 9：30～12：00	珈琲の基礎知識や文化と歴史、珈琲豆の選び方や、抽出技術を学ぶ	珈琲焙煎士 坂井 稔

④ 講座を終えて

講座は、ドリルを使い、珈琲の歴史、豆の違い、珈琲の器具の説明があった。ドリップ式・サイフォン・コーヒーマーカーそれぞれ違いがある。

ドリップ式には、さらに穴の数により、抽出時間の違いがあり、3穴は、早く抽出できるので、スッキリした、1穴は、3倍の時間をかけるので、コク深い作品に仕上げることができる。

サイフォンは、アルコールランプで、温めながら抽出することで、豆の個性がさらに際立ち、より温かい物を提供できるそうだ。コーヒーマーカーは、会社やファミリーレストラン等大量に抽出するのに向いていて、味は・・・。

次に、講師がドリップ式の、デモンストレーションを行った。「エグ味・雑味・灰汁を浮かせて美味しい所だけ落とすんですよ！」受講者は、「至福の一杯に仕上げる」という意気込みで、真剣に講師の動作を見ていた。

いよいよ、自分が店主となり、抽出が始まった。早速「あっ！」という焦ったような声があちこちで……。すると、講師が「気にせず続けてください」と。1回目が終わり、周りの方たちと飲み比べをしたが、「うーん」という表情。

次に備え、お湯を沸かしている間に、抽出のポイントの話があった。ブラジル、モカ、マンデリンと、都合3回抽出した。

抽出の間に、講師が、器具（サイフォンとマキネッタ）を変え抽出した物を受講者に配り、「器具によっても、こんなに味が違うんですよ」と。

3回抽出終わるころには、それぞれ「至福の一杯」に出会えたようで、疲れた表情の中にも笑顔が見えた。

アンケートの結果を見ると、全員が、「満足、学ぶ意欲が高まった」と答えた。「家族に淹れたい」「上級を望む」という意見もあった。

今年度 かなりの人が抽選に外れたので、来年度の講座について、（上級編も含め）講師と打ち合わせをし、やり方等を検討していきたい。

『風媒花』第37号特集「学芸員が語る佐倉の文化財」発表会

～「知らない」から「知っている」、「知っている」から「好き」が見つかる文化財～

① 開設趣旨

学芸員の活動とその成果にふれ、地域にかかわる知見を広めるとともに、地域住民の学習意欲を高めることを目指す。併せて、専門性を発揮する機会の提供を通じて、学芸員採用職員の職務を顕彰し、業務意欲の向上に資することを目的とする。

② 募集対象

成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	2月3日(月) 13:30～16:00	佐倉市文化芸術アーカイブ『風媒花』第37号の特集に寄稿した学芸員が市文化財を紹介する発表会	公益財団法人 印旛郡市文化財 センター 山崎 慧 佐倉市文化課 江森 幹浩 須賀 隆章 佐倉市立美術館 本橋 浩介

④ 講座を終えて

本講座は、講師派遣希望の選考から外れた千葉県文書館講座の代替として企画し、関係所属・発表者の快諾・協力を得て開催する運びとなった。当日は、長年編集に携わってきた担当者による佐倉市文化芸術アーカイブ『風媒花』の紹介に続き、第37号特集に寄稿した学芸員から4名が各自執筆したテーマについて発表を行った。発表はテーマの時系列順とした。

一般に「ウケる」テーマではないことに加え、広報開始が遅れたほか、午後開催・資料代ありとしたことで、人数は定員の約半分にとどまったが、意欲ある参加者が集まり、熱心に聴講していた。出席の3割がいわゆる現役世代で、また女性が半数を超え、市内で歴史分野を含む公民館講座としては、参加者層の変化を得ることができた。発表者からも、自身のみが話す説明会や講座がほとんどで、他者の発表を聞くことはあまりなかったとして、新鮮な気持ちで参加できたとの声が聞かれた。

社会に貢献することを目的として行われる各種研究は、その成果の多くが間接的ではあるが、私たちの生活と結びついている。研究分野に対する関心の低下が予算の形となって、その活動に深刻な影響を及ぼしていることは、クラウドファンディング実施例の数々で示されているとおりである。市民生活の維持・向上のためには、研究者・専門職の活動と主権者をつなぐ場の提供は欠かせないものであり、県文書館講座活用とあわせて、手法の検討を継続する必要があると考える。

おとなのための寄せ植え体験講座

① 開設趣旨

寄せ植え体験をすることで、自然とのふれあい、土とのふれあいを楽しんでもらうことを目的とする。生活中に緑を取り入れるとともに、育てた寄せ植えが地域住民の目に留まることにより、きれいなまちづくりの一助とすることもねらいとしている。

② 募集対象

成人 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	12月 7日（土） 10:00～12:00	ダブルデッカーという技法で球根と花の寄せ植えを体験する	日本ハンギング バスケット協会 高橋 洋子

④ 講座を終えて

今年度で2年目となる「おとなのための寄せ植え体験講座」。今回も日本ハンギングバスケット協会 高橋氏を講師に迎えて開催した。

今回はダブルデッカーという技法で球根とお花の寄せ植えをした。初めは球根の植え方について。どのくらいの深さに球根を植えるのがいいのかといった講義があった。

いよいよ寄せ植えを行っていく。少し深めの鉢に球根を植え、その上に土をかぶせてお花を植えていく。春になるころには球根から芽が出て花を咲かせてくれる。受講者は「こんな風に植えたことはなかった。春になるのが楽しみ！」と言っていた。

球根を先に植えているので、花を植えるときには「ちゃんと球根が植えてあることを意識してね！」と先生から何度も注意の声が聞かれた。

講座の最後には、なぜお花を植えるか。お花を植えていけば、必ず水を上げる。球根も水を必要とするのよ。とおっしゃっていた。

講座後のアンケートでは、参加者すべての方から、参加してよかったと回答をいただいた。また、「今までは適当にやっていた。これからはよく考えながら植えるようにする」といったご意見もあった。

毎回この講座は人気があり、今回も抽選となっている。参加者からも「また企画してほしい」との声をいただいている。来年度もぜひ継続して行っていきたい講座の一つである。

お気に入りの布を使ってオリジナル御朱印帳を作ろう ～心を込めて作る一冊～

① 開設趣旨

日本人の旅の始まりは、寺社巡りと言われている。

伝統的な技法とオリジナルのアイデアを組み合わせた御朱印帳。過去からの日本人の伝統文化に思いはせながら、オリジナル御朱印帳を作り、また、根郷地区に多数ある寺社を巡る講座と併せて地域の文化に触れることを目的とする。

② 募集対象

中学生以上 10人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月 3日（日） 9:30～12:00	御朱印帳の作り方を学ぶ	製本教室認定講師 岩宮 しげみ

④ 講座を終えて

コロナ禍を経て、平成30年から6年ぶりの開催となるこの講座は、定員10人の応募で全員が出席した。

講座が始まる前に自分が持ってきた布にアイロンを掛けスタンバイ。挨拶の後、講師から「3か所難関があります」と説明があった。

1か所目の難関、布に「裏打ちシールをまっすぐピンと貼る」。2人掛けの相手の方と協力しながらやりました。

次に2か所目の難関「本文となる紙を2つ折りにし、蛇腹になるようにのり付けする」。説明を聞いている時は、皆「うんうん」と言っていたが、単純な作業ではあるが、いざ開始すると「??」。頭の体操をしながらゆっくり慎重に蛇腹が完成。

3か所目の難関「本文と表紙をまっすぐ貼り合わせる」。最後の集中力を研ぎ澄まし、慎重に貼り合わせ完成。

アンケートを見ると、全員が満足、目的が達成されていると回答していた。手を使う講座に興味がある方が多数いた。

今回、慎重な作業が続いたが、講師の話術で時々笑いも起こり、和気あいあいと講座は進んでいった。講座中でも「楽しみにしていた」「次回は、いつですか？」など積極さも伝わってきたので、来年も引き続き実施していきたい。

佐倉学入門講座 「戦国後期の佐倉地域」～根郷地区を中心に～

① 開設趣旨

16世紀前半、小弓公方足利義明は、対立する兄の古河公方足利高基を倒そうと、高基方の千葉氏の本佐倉城を攻めます。この時期の根郷地区の様相について学びます。

② 募集対象

成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月31日（金） 10:00～12:00	16世紀前半、小弓公方足利義明の千葉氏の本佐倉城攻めを通じて、この時期の根郷地区の様相について学びます。	遠山 成一 （佐倉市文化財審議会 副委員長）

④ 講座を終えて

「16世紀前半、小弓公方足利義明は、対立する兄の古河公方足利高基を倒そうと、高基方の千葉氏の本佐倉城を攻めます。この時期の根郷地区の様相について学び、郷土への関心を持つきっかけづくり」を目的に企画した。

講義は、「歴史的農業環境閲覧システム」の地図や、「千学集抜粹」の史料、スライドと小弓公方家系図をつかって説明がなされた。講義の内容は、千葉氏本佐倉城は対外的に攻撃を受けることはほぼなかったと考えられてきたが、近年の研究で16世紀初頭と同じく前半の2期にわたって、足利義明と高基との争い等の中で、本佐倉城周辺が攻撃を受けたことが明らかになったと説明があった。そのなかで根郷地区が前線となり重要な役割を果たしたことについて、興味深い講義となった。

アンケート結果を見ると、満足度の評価が、「満足」15人と評価が高い反面、未記入16人が一番多い結果となった。これは、「不満」と感じている人が印をつけたと分析する。ご意見欄として、講師のマイクや声、配布資料と講義の説明が一致してない等厳しい指摘があったので、講師と連携をとり改善していきたい。前回から地図に関する要望があるが、これはアプリを使っているため配布することは困難なので、今回から講師からアプリの案内をしてもらっている。また、佐倉学に対する興味は、非常に高いという結果になった。講座への期待が高い反面、評価が2分されている結果については、アンケート結果を元に分析し、今後の講座に繋げたい。

佐倉学入門講座「佐倉にゆかりのある幕末・明治の留学生」

① 開設趣旨

佐倉にゆかりのある人が、幕末から明治にかけて海外に留学している彼らは留学地

でどのような経験をしたのか。今回は、数人にスポットを当て、詳しく解説する。

② 募集対象

成人 50人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月31日（木） 10:00～12:00	佐倉にゆかりのある人が、幕末から明治にかけて海外に留学している。彼らは留学地でどのような経験をしたのかを学ぶ。	内田 儀久（市史編纂委員）

④ 講座を終えて

佐倉市市史編さん委員の内田氏を講師に「佐倉にゆかりのある幕末・明治の留学生」をテーマに講義を行った。当時留学生は、16人居たそうで、そのうちの6人が紹介された。

津田仙 米国では、書記官の仕事は福沢諭吉の仕事であったが、福沢の訳文がとても公用文として使えるものではなかったため、津田仙が書記官の仕事をし、通訳は会話能力のすぐれていた尺振八が行っていた。津田は、自分の任務は翻訳方なのか通弁方なのかははっきりさせてもらいたいと使節団正使の小野友五郎に訴えたそうだ。

津田梅子 開拓次官であった黒田清隆は、開拓事業の調査を行った。開拓使は女子留学生の応募を行ったが、応募者は一人も現れなかった。そこで縁故に頼って募集を図り、5名に決定した。梅子は渡米後間もなく書いた作文の中で「はじめは姉が来るはずでした。でも家からこんなに遠く離れたところへ来るのはいやだというのでわたしが来ました」と書いている。そのあと線をひいて留学地（今でいうホームステイ先）のランマン夫妻を気づかって訂正したそうだ。

明治4年11月 新橋～横浜間の鉄道開業を翌年に控えていた。梅子たちは、試運転中の汽車に乗りし横浜へ向かった。言うことは、彼女たちが日本で初めて汽車に乗ったことになる。 など 様々なエピソードが紹介された。

アンケート結果を見ると、ほぼ全員が「講座に満足し、目的が達成されている」と回答している。継続開催や、別のテーマでも開催を望む声があることから、来年度もテーマを精査し、継続していきたいと思う。

佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪

① 開設趣旨

根郷地区の自然を散策しながら、野草・古木等を観察し、自然に親しむことにより、郷土の自然について理解を深める。また、郷土の歴史・文化・自然を学び、郷土愛を高めるとともに、地域を見直す機会を提供する。

② 募集対象

成人 春の野草観察会 15人

寺崎地区史跡めぐりと密蔵院薬師大祭 20人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	4月16日（火） 9：30～12：00	春の野草観察会 小篠塚地区の散策	佐倉野草会 近藤 維久子
2	11月 8日（金） 12：00～16：00	寺崎地区史跡めぐりと密蔵院薬師 大祭	菊地 昭夫

④ 講座を終えて

春の野草観察会では、当日は天気も良く、汗ばむ陽気であった。八重桜も咲き始めて絶好の散策日和。

今回は南部保健センターを出発して、工業団地から荒立橋を通り、小篠塚に向かう。途中の道端にもオオイヌフグリやホトケノザなど古来からある植物や、クサノオウやツルニチニチソウなどの外来種も多くなっているとのことであった。

大篠塚市民農園を過ぎ、上人塚古墳へ。この古墳は佐倉市指定文化財となっているが埋葬品などは明らかでないとのこと。通常古墳のそばには桜などの木が植えられていることが多いが、この古墳にはモミジが植えられており、立派な古木であった。

上人塚古墳を後にし、ハス田へ。このハス田は現在大学生が地元の人から田んぼを借りてハスを栽培しているとのこと。ちょうどその方がいらしたので、ハス田を始めるきっかけや苦労話をお話ししてくださった。

帰り道の途中に、珍しい植物「ナチシダ」を紹介してくれた。名前は和歌山県的那智にちなむそう。これは成長すると1.5mくらいになるそうだ。今の時期はまだ出ておらず、去年の枯れたものがあつた。佐倉でこの植物が育っているのは大変珍しく、どこからどのように来たかはわからないが、温暖化のためにこの地域でも育つのではないかと、とのことであった。今回のように植物からわかる「温暖化」。地元の自然の変化に理解をしてもらえよう、今後も自然観察の機会を提供していきたい。

寺崎地区散策では、密蔵院薬師堂の薬師大祭が行われるということで、史跡めぐりとあわせて実施した。

数々の場所を回ったが、参加者は講師の話に熱心に聞き、その歴史に感心していた。また、中世の面影を残す先の見通せない狭い小路の町並みは、市内でも類をみないもので、「同じところを回ってる？」と錯覚するほどだが、それも楽しみの一つと言える。参加者からも全員から「満足」「やや満足」という回答をいただき、また、佐倉市の史跡にたいして学ぶ意欲が高まったという回答を得られた。

今後も寺崎地区をはじめ、佐倉市の他地区名所などの魅力を伝える講座を増やしていきたい。

佐倉学体験講座「こんにやく作り」

① 開設趣旨

地域の産物として江戸時代の文献に記録が残るこんにやくを手作りする体験をおして、地域住民の親睦と地域への愛着を育む機会とする。

② 募集対象

成人 15人

③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	12月5日(木) 9:00～13:00	近隣地域で栽培収穫されたこんにゃく芋を使い、地域住民の協力のもと、こんにゃくを手作りする	牛玖 昌弘

④ 講座を終えて

理由は不明ながら、想定を超える約3倍の応募があった。講師が用意して配布した資料をもとに作業概要を説明後、班別の実習を行い、できあがったこんにゃくは、各班のものを2本ずつ取り、講師から提供いただいた落花生赤飯とゆずみそを取り分けたものとともに持ち帰りとした。

受講者の多くは初対面のようなだったが、開始前から歓談するなど、終始なごやかに協力して作業を進め、終了後は自然とお礼のあいさつを交わしていた。班によって質感の違いが見た目にも感じられるできあがりとなり、帰宅後の試食に対する期待がふくらむ実習となった。

当館調理室の調理台4台で、1名少ない班が生じたが、その必要性は特に見られないため、次回は定員を16または20名とすることを検討してよいと思われる。

講師持参の調理器具は4つの班で不足もあったが、時間内に終わらない、後から使った班の遅れが顕著といった状況はなく、先に使う班を見て、後の班が実習するなどの誘導をすれば、問題はないと思われる。

イモの生産、指導者の面では、将来的な継続には困難が想定されるところだが、こんにゃく作りは容易に体験できるとはいいがたく、指導者に恵まれている当館において引続き講座を開催する意義は大きいと考える。

4. 団体育成事業

根郷地区社会教育関係団体への支援

根郷地区青少年育成住民会議

近年、青少年を取り巻く環境は著しく変化し、それに伴う諸問題は複雑かつ深刻化する傾向にあるようだ。こうした問題の解決のため、市民一人一人が問題解決に取り組み、家庭や学校、そして地域がそれぞれの立場で、各種団体と行政が協働して健全育成を推進していくことを目的に、昭和57年、佐倉市青少年育成市民会議が結成された。

組織としては市内7地区の青少年健全育成住民会議と、子ども会育成会連絡協議会、PTA連絡協議会などその他構成団体からなり、事務局は佐倉市こども支援部こども政策課が行っている。

根郷地区青少年育成住民会議は、地域住民が相互に連携協力し、青少年の健全な育成と非行防止、福祉の充実を図るため、研究並びに協議を行い、地域ぐるみ活動を伸長させることを目的としている。主な活動としては、地域行事の企画・運営、各種団体への助成などを行っている。

花の応援団

地域住民によるボランティア団体のもと、公民館の花壇・植栽の手入れを行い、学習環境の維持・向上に努めています。園芸を通じた仲間づくりや生きがいの醸成、また、会員どうしの情報交換から園芸への知識の向上をはかることなどを目的として、概ね月1回活動しています。

実施日	人数	実施日	人数
4月14日(月)	5	10月6日(月)	5
4月26日(金)	6	11月10日(月)	6
6月9日(月)	5	12月8日(月)	6
7月14日(月)	4	3月10日(月)	5
9月8日(月)	5		
		計	47

定期利用者懇談会

- ① 開設趣旨 公民館を定期的に利用している定期利用団体に対し、公民館の利用方法を周知し、公民館活動についての理解を深める機会の提供。利用団体から意見や要望も伺い、館の運営に反映する。(コロナ禍後、初の対面開催)
- ② 対象 定期利用団体代表者 76団体(出席 43団体 欠席 33団体)
※欠席団体には、書類を配布
- ③ 日時 4月26日(金) 午前10時～午前11時

調理室利用者懇談会

- ①開催趣旨 調理室美化を保つため、調理室保管棚を利用している定期利用団体の会員に集ってもらい、整理整頓作業を実施する。併せて調理室の利用について、要望や意見を聴取する懇談会を実施する。
- ②対象 利用団体代表 4団体
- ③開催日時 3月6日(木) 午前10時～正午

5. 広報事業

根郷公民館だより

- 趣旨 公民館の事業、利用団体の活動、地区の情報などを案内するために公民館だよりを発行した。
- 発行回数 年2回（4月15日、9月15日）
- 発行部数 4月15日号：7,000部 9月15日号：6,800部
- 配布方法 各公民館・図書館の窓口配架。根郷地区内に新聞折込み

6. 図書事業

図書の貸出・返却

- 趣旨 読書活動を支援すると共に、個人学習や集団学習への資料提供を行い、学習の深化を図った。リクエストの受付や他館からの返却受付などの利用者の利便を図った。また、佐倉市関連資料や根郷地区関連資料を収集し、貸し出すことにより、地域理解を深めるための支援を行った。
- 蔵書数 約3千冊
- 月別貸出冊数・返却冊数

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出数 (冊)	87	103	125	107	98	112	119	157	152	151	145	174	1,530
返却数 (冊)	264	234	266	292	269	222	308	372	253	290	335	318	3,423